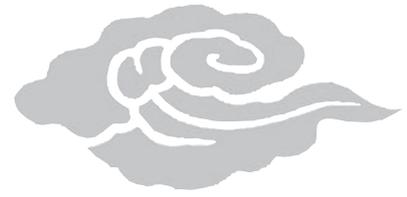


建設会報 いずも



No.135

2022年

新春号



表紙の言葉



1592年文禄の役で秀吉の命により朝鮮半島に渡った加藤清正は、虎退治をしたことで知られています。

夜半になると虎が現れ軍馬に襲いかかり、それをくわえたまま宙を飛んで逃げるほどの大きな虎で、清正は愛用の十文字槍を持って戦いましたが、方片の刃を折られたため鉄砲で退治したという伝説があります。

今年は寅年、朝鮮王朝時代虎絵は別名「虎逐三災（こちくさんさい）」と呼ばれ、火災、水災、風災を防ぎ、戦乱、病気、疫病から身を守る象徴画とされました。新年には一年の邪悪を避ける意味から出入り口へ虎絵を貼り付けるという風習もあったといわれています。

えと文 / 渡部良治

Contents

-
- 01 巻頭言 中筋 豊通〔一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会長〕
-
- 03 新年のご挨拶 武内 慶了〔国土交通省出雲河川事務所長〕
-
- 04 三嶋 良之〔厚生労働省出雲労働基準監督署長〕
-
- 05 松本 好尚〔出雲警察署長〕
-
- 06 高橋 洋二〔出雲県土整備事務所長〕
-
- 07 飯塚 俊之〔出雲市長〕
-
- 08 年男の抱負 青砥 正人〔㈱日本海建設〕
-
- 09 嘉村 栄二〔㈱嘉村建設〕
-
- 10 優良工事知事表彰を受賞して 奥井 正史〔今岡工業㈱〕
-
- 11 令和3年度 優良工事等表彰 表彰一覧
-
- 13 R3年度トピックス 7月豪雨による国道9号線復旧作業
-
- 15 島根県各種功労者表彰 故 荒木 國夫〔昭和開発工業㈱〕
-
- 16 全国建設業労働災害防止大会に参加して 持田 正司〔安全委員会(㈱浜村建設)〕
-
- 17 建災防活動〈安全パトロール・安全研修会〉
-
- 19 経営研修会2021
-
- 20 インターンシップ体験談
-
- 23 お知らせ 出雲建設会館の利用のご案内
-
- 24 編集後記 手銭 弘明〔経営改善研究会(㈱神門組)〕
-

令和4年 年頭所感

みずのえとら
「壬寅」年
素晴らしい年を目指して！



一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会

会長 中筋 豊通

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年も新型コロナウイルスとの戦いの年でした。残念ながら暮れには新たな変異株オミクロンが出現、水際対策を始め、再び臨戦態勢となり、引き続き予断を許さない状況が続いています。

厳しい状況下、無観客で開催された「東京オリンピック・パラリンピック」では、日本は過去最高のメダルを獲得、選手を始め多くの関係者の皆様に敬意を表したいと思います。

大谷翔平の満票での MVP 獲得、松山英樹・笹生優花のメジャー制覇、最年少4冠の藤井聡太など、若い人たちの活躍にも、目を見張るものがありました。

また、防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策がスタート、岸田政権誕生、「寛容で丁寧な政治」新型コロナ対策と経済対策を柱に『成長と分配の好循環』を目指し、35兆9千億円の大型補正予算、さらに過去最高の107兆5964億円



の新年度予算（案）も発表されました。東日本大震災から10年目の節目の年でありましたが、熱海の土石流災害を始め、九州、北陸、中国地方など豪雨災害に見舞われました。当・出雲地区でも災害が発生、会員企業が協力し災害復旧に対応して行かねばなりません。

「^{みずのえとら}壬寅」年、「みずのえとら」が意味する「新しく立ち上がる」「生まれたものが成長する」素晴らしい年を目指し、新たな気持ちで、働き方改革、生産性向上など多くの課題に取り組んで行きましょう。

会員の皆様、今年もお世話になります、ご協力のほど宜しくお願い致します。

ありがとうございました。



国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所

所長 武内 慶了

3点セットの早期完成と流域治水の推進

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、日頃より国土交通行政、とりわけ河川行政の推進にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

斐伊川水系では、斐伊川・神戸川治水事業3点セットのうち、上流の尾原ダムと志津見ダム、中流の斐伊川放水路はすでに運用を開始しているところです。残る下流の大橋川改修及び中海・宍道湖の湖岸堤整備等につきましても、地域の皆様のご理解を頂きつつ、整備を進捗させ、一日も早く3点セットが完成するよう努めて参ります。

そのような中、昨年は斐伊川流域にも多くの降雨があり、7月の出水では斐伊川本川でも戦後第3位を記録する大きな出水が発生しました。これまでに整備したダム・放水路の運用により、斐伊川下流区間などにおいて水位低減効果が発揮された一方、支川の氾濫や山間部での土砂災害など流域内の広い範囲で甚大な被害が生じたところでもあります。被災された皆様に改めてお見舞い申し上げますとともに、流域一体となった治水対策のさらなる加速の重要性を身にしみて感じたところです。

このように近年激甚化・頻発化する水災害への対応の必要性がさらに高まる中、治水対策の考え方として流域内のあらゆる関係者により流域全体で水害による被害を軽減させる「流域治水」へと転換を図っていくこととしており、斐伊川水系におきましても流域全体で実施すべき治水対策の全体像を「斐伊川水系流域治水プロジェクト」として関係機関と連携しながら昨年度策定いたしました。これによりハード・ソフト一体となった流域全体での防災・減災対策を着実に進捗させるとともに、今後は自然環境の有する多様な機能を活用したグリーンインフラの考え方を盛り込むことで同プロジェクトのさらなる充実を図るなど、斐伊川流域の安心・安全な地域づくりに努めて参ります。

また、斐伊川流域の貴重な生物生息環境を生かした地域づくりの取組として、まちづくりと一体となった良好な河川空間の整備を行うかわまちづくり、ダム周辺地域にてイベント等を実施する水源地域ビジョン、生態系ネットワークの形成による大型水鳥類が舞う魅力的な流域づくりなど、引き続き関係者と連携し様々な取組を推進して参ります。

さらに、昨年もコロナ禍で様々な活動に制約が強いられた1年でした。地域防災力の向上を図る上では、災害時の即応性はもとより、膨大な施設などの平常時の維持管理が重要であることに変わりはなく、地元精通した建設業に携わる皆様のお力が不可欠です。若手技術者の育成・確保や女性技術者の積極的な登用、さらにはAI・IoTなど最新の情報通信技術を活用した非接触・非対面での働き方改革の実践などによるデジタルトランスフォーメーションの推進を通じた建設業の持続的な発展を期待しております。

皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



厚生労働省島根労働局
出雲労働基準監督署

署 長 三 嶋 良 之

明けましておめでとうございます。新年を迎え、心よりお慶び申し上げます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会並びに会員の皆様方には、日頃から労働基準行政へのご理解、ご協力、労働災害防止活動へのご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、最初に確認されてから既に2年以上経過しましたが、新たな変異株「オミクロン株」の感染等、未だ終息が見込めない状況です。

厚生労働省では、職場における新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」「職場における新型コロナウイルス感染症対策実施のため～取組の5つのポイント～を確認しましょう！」等を作成していますので、これらを活用していただき、引き続き新型コロナウイルス感染症対策の徹底をお願いいたします。

当署管内の労働災害の発生状況（令和3年1月から11月末までの速報値）につきましては、休業4日以上労働災害の発生件数は、全業種で245件（令和2年同期212件）、うち死亡災害は、全業種で1件（同1件）発生しています。このうち、建設業においては、休業4日以上労働災害は39件発生しており、昨年8月22日には、建築工事現場の屋根上で資材片付け作業中の労働者が照明設備を取付けるための開口部（90cm×90cm）から約1.1m下のコンクリート床に墜落し、亡くなられるという死亡災害が発生しています。

墜落災害防止に関連して、墜落制止用器具としての旧規格の安全帯は、本年1月2日以降の使用が原則禁止され、新規格により製造されたフルハーネス型の使用が義務付けられていますので、措置の徹底をお願い致します。

なお、島根県内では冬期の積雪、凍結、寒冷に起因する転倒災害が12月から2月までの間に集中して発生していることから、「STOP！転倒 しまね冬のゼロ災キャンペーン」を令和3年12月15日から本年2月28日まで実施していますので、転倒災害防止のため、天気予報に気を配り、積雪・凍結が予想される場合は早めに労働者に周知する、駐車場や屋外通路、建物出入口の除雪を実施する等の取り組みをお願いいたします。

また、昨年11月、当署管内で発生した労働災害に係る労働者死傷病報告を遅滞なく提出しなかった代表者及び法人について書類送検を行いました。休業4日以上が見込まれる労働災害が発生した場合は、労働者死傷病報告の提出を遅滞なく行っていただきますよう再確認をお願いいたします。

当署では、平成30年度を初年度とする第13次労働災害防止計画の最終年である本年におきまして、休業4日以上死傷災害を「平成29年の休業4日以上死傷災害（248件）と比較して、5%以上減少させる。」との目標の達成に向け、235件以下に減少させるべく監督指導等を積極的に行ってまいりますので、労働災害の防止に向け、一層の取り組みをお願いいたします。

最後になりましたが、貴協会並びに会員の皆様方の益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



島根県出雲警察署

署長 松本 好尚

明けましておめでとうございます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

会長をはじめ皆様方には、平素から暴力団排除活動はもとより、警察行政の各般にわたり、ご理解・ご支援を賜っておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も一昨年からの引き続きの「コロナ禍」であり、感染予防の定着化や感染者の減少等により、徐々に行動制限等も緩和されつつありますが、未だ従来どおりとは言えない状況が続いております。

そうした中、島根県内及び当署管内の治安情勢は、関係機関等の皆様のおかげをもちまして、治安のバロメーターと言われます刑法犯認知件数は、平成15年のピーク時に比べると大幅に減少し、戦後最小を記録するなど、治安は着実に良い方向に向かっていますが、依然として還付金詐欺をはじめとした特殊詐欺被害が後をたたない状況です。

全国の暴力団情勢に目を向けてみますと、構成員等（含む準構成員）は年々減少しているものの、六代目山口組から離反して出来た神戸山口組、さらには神戸山口組から分裂した任侠山口組（絆會）による組織間の対立は続いており、警察では市民生活の安全確保に向け、全国警察を挙げて集中取締りを強化しているところです。

六代目山口組と神戸山口組については、対立抗争事件の発生を受けて、引き続き、「特定抗争指定暴力団」に指定するとともに松江市内を「警戒区域」として、活動を厳しく制限しております。

暴力団の資金獲得活動については、全国的には覚醒剤等の密売や恐喝等の伝統的なものをはじめ、組織実態を隠蔽しながら、建設業、金融・証券市場へ進出して、企業活動を偽装した一般社会での活動のほか、公的融資制度を悪用した詐欺事件や特殊詐欺事件に関与するなど、社会情勢の変化に応じた多種多様な資金獲得活動を展開しております。

島根県内においては、六代目山口組二次団体の傘下組織3団体が事務所を構え、常に資金源の確保・獲得のために動いています。

こうした情勢の中、ここ出雲市においては、皆様のご協力により長年にわたって、暴力団事務所の進出を許しておりません。

これは協会の皆様をはじめ、市民の皆様、出雲市などの関係機関、各企業の方々などが警察と一体になって、暴力団排除活動に取り組んでいただいている結果であります。

皆様方には、引き続き、「暴力団追放三ない運動+1」

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない
- 暴力団と交際しない

の実践をお願いします。

出雲警察署では、署員一同、暴力団等反社会的勢力を根絶するための活動を強力に推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。



島根県出雲県土整備事務所
所長 高橋 洋二

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆様方には平素より出雲県土整備事務所が取り組んでいる社会基盤の整備や公共施設の維持管理に対しまして、格別のご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年は、7月から8月の豪雨により出雲県土整備事務所管内の島根半島西部や山間部等道路、河川等の公共施設被害や浸水被害が多く発生しましたが、地域に精通し経験豊富な協会の皆様の迅速な対応により、啓開作業や応急工事を短期間で完了することができました。今年から災害復旧工事を本格的に実施することとなりますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

河川整備では、新内藤川流域4河川の本改修並びに暫定改修整備を、平成23年度から10年間の集中投資により進めて参りましたが、先の7月、8月豪雨による家屋浸水などの顕著な被害の発生はなく、治水安全度は確実に向上が図られていることが確認されたところです。しかしながら、管内河川の整備は未だ遅れており、今後も引き続き新内藤川流域4河川に加え、湯谷川、平田船川、十間川及び高瀬川などの市街地浸水対策を重点的に実施し被害の軽減に努めて参ります。

道路、砂防、港湾、都市計画及び農業基盤等の整備についても、国道431号（布崎工区）、出雲奥出雲線（野尻2工区）、出雲平田線（川跡工区）、素鷲川砂防事業及び斐川下阿宮地区県営農地耕作条件改善事業などが令和3年度中に完成するなど、着実に社会資本整備の強化が図られているところです。この他、落石対策、橋梁耐震化、老朽化対策及び舗装等の修繕など道路維持事業の拡充も図るなど、引き続き、国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」予算などを十分に活用しながら社会資本整備の推進を図って参ります。

建設業は、地域のインフラの整備、維持管理等を支えるとともに、災害時には最前線で安全・安心の確保を担う「地域の守り手」として重要な地域の基幹産業であります。当事務所においては、圏域の安全・安心確保や社会基盤の充実を図るとともに、ICT活用による生産性向上、週休2日制度の導入、適正な工期設定や施工時期の平準化など建設業の「働き方改革」にも積極的に取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



出雲市長 飯塚 俊之

新年、あけましておめでとうございます。

みなさまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、私は、昨年4月に市長に就任し「Move Forward 前へ！」を合言葉に、「元気な出雲、活力のある出雲、そして笑顔の絶えない出雲」の実現を目指して市政をスタートしました。

就任直後から新型コロナウイルス感染症対策として、ワクチン接種など感染拡大防止対策に取り組むとともに、市民生活や地域経済の回復に努めてまいりました。また、7、8月には大雨災害が連続して発生し、その対応に追われた年となりました。

会員のみなさまには、災害応急対策に迅速に対応していただき感謝を申し上げます。

しかしながら、多くの災害現場において災害復旧も道半ばの状況であり、本年は、本格的な災害復旧工事が始まります。会員のみなさまのご協力をよろしく申し上げます。

そのような中ではありますが、昨年は、東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレーが当市でも行われ、一昨年は開催できなかった「出雲全日本大学選抜駅伝競走」「出雲ドーム2000人の吹奏楽」等のイベントも観客数等の制限を行いながらではありましたが開催することができ、少しずつ賑わいを取り戻すことができた年であったと思います。

また、本年は、4月から新出雲エネルギーセンターが本稼働するほか、新体育館の建設、平田4地区統合小学校建設等の大規模工事が本格的に動いていきます。

引き続き災害復旧、インフラ整備、メンテナンス整備等の工事において、会員のみなさまの協力をお願いします。

市政運営2年目となります本年は、アフターコロナに向けて、「Move Forward 前へ！」の合言葉のもと、元気、活力、笑顔あふれる出雲とするため、積極的にまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。

特に、令和4年度には、今後8年間のまちづくりの方向性を示す出雲市総合振興計画を策定します。策定にあたっては、幅広い世代の方のご意見を聴きながら、出雲の未来を創造していけるよう、まちづくりの新たなステージへと踏み出していきます。

将来に向け、若い世代が自分の夢を実現し、市民一人一人が輝き、全てのみなさまが笑顔になれる出雲市をめざし、全力で市政運営に取り組み市政を着実に「前へ」進めてまいります。

最後となりましたが、今年1年がみなさまにとりまして、素晴らしい年になりますことを祈念いたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

▶ 年男の抱負



(株)日本海建設

青砥 正人

新年あけましておめでとうございます。

私事ですが今年、48歳を迎える年となりました。この寄稿依頼を頂くまでは自分が年男という認識はありませんでしたが早いもので4度目の年男です。

建設業に従事し、約30年が経ちましたが振り返ってみますと現場作業員から始まり今は経営者の立場で携わっているように私個人の環境も変わりました。その間、厳しい環境の中、建設業界も様々な変化がありました。

30年前は工事写真もフィルムカメラで撮影し現像をしたものを写真帳に入れて整理し、図面も手書きで作成していましたが今ではデジカメに電子黒板、CAD図面と全てが電子化され、測量も自動追尾のトータルステーションでワンマン測量が可能になるなど作業効率はかなり向上したと感じます。また、3次元設計データの活用やICT建機の普及に伴い、今まで当たり前のように行っていた測量、丁張などの作業が省略可能となるなど技術はめまぐるしい進歩を続けています。

雇用や労働環境に目を向けてみると休日は日曜日だけ、年度末が近づくと休日返上で働くのが当たり前の時代もありましたが、今では働き方改革を推進し週休二日の実現に取り組んでいる状況です。深刻な人手不足に直面しているのは建設業界だけではありませんので人材の獲得競争は厳しいものとなりますが、魅力のある建設産業となり、働く人が誇りを持ちやりがいを感じる業界となるように取り組んでいかなければならないと思います。

建設業協会、各工事現場などでさまざまな魅力発信の取り組みが行われておりますが、弊社としても雇用や労働環境の改善に取り組んでいるところであります。数年前から年間の休日日数を増やし今年104日になりました。休日日数を増やすことだけでなく所得向上も実現していかなければいけないとも考えています。

休日が増える中でも売り上げを確保し、所得向上を目指すことは容易ではなく大変難しいことも理解していますが、あきらめずに工夫を凝らして少しずつでも実現できるように努力していきたいと思います。時代が変わり技術が進歩したとしても建設現場は多くの人助け合い、協力して目的物を完成させることに変わりはありません。コロナ禍で「飲みニケーション」は減りましたが人とのつながりを大切にこれからも励んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、会員企業の皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年も何卒よろしくお願いたします。

▶ 年男の抱負



(有)嘉村建設

嘉村 栄二

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和4年を迎え、本年の干支は壬寅（みずのえとら）であり「才能や運気が芽吹き新しい成長が期待できる」年といわれています。由来からも、4回目の年男を迎える私にとってこれまでの人生を振り返り、今後どう成長に生かしていくのかを改めて見つめ直す節目の年になると感じております。

さて、昨年を振り返ると with コロナの定着、7月豪雨災害、延期となった東京オリンピックの開催がありました。決して暗い話題ばかりではありませんでしたが、やはり我々の生活に直結する豪雨災害において、鳥根県全域の被災額が農林水産分野で227億円、道路・河川で161億円と総額388億円となっており、ここ10年では最大の被害額となりました。弊社におきましても各種公共施設、民家の土砂崩れ対応でかなりの時間を費やしました。未だに手付かずの場所もあり引続き対応を行っているのが現状です。このような状況を目の当たりにすると我々建設業が地域で「安心」「安全」「快適」な暮らしを守るために必要不可欠であり、存在意義を痛感した年でありました。

今後、我々が暮らす鳥根県においても人口減少、災害復旧、疲弊する地域再生など未曾有の環境下でも建設業と社会資本整備が担うべき役割が確実に高まっている事を認識し、この変化を的確に捉え、時代の要請に応じて、豊かな社会づくりに貢献できるように努力をする年になりたいと思います。

最後になりましたが、出雲地区建設業協会の益々のご発展、会員皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

▶ 優良工事知事表彰を受賞して

今岡工業(株)

奥井 正史



この度は、平成30年度 災害関連緊急治山事業（小弁堂）山腹工事に於きまして、島根県優秀建設技術者表彰を頂き、大変光栄に思っております。

本工事は、平成30年4月9日に三瓶山周辺を震源とする地震により、志津見ダム下流右岸の山腹斜面が、高さ125m 延長80mに渡り崩壊し、土塊や岩石及び倒木が神戸川まで堆積した災害斜面の復旧工事でした。

この被災斜面の復旧にあたり、社内施工検討会において留意・注意すべき点が挙げられました。

1. 本現場は長大な斜面の復旧保護工事である。
2. 復旧斜面は、落下物災害の危険が常に潜在している。
3. 起工測量や出来形測量が従来の方法では墜落災害や測量性能の限界がある。
4. 切土、排土作業時の落石や人力施工の限界並びに工事進捗の確保が必要である。
5. 施工範囲の条件に対する、特殊工法（高所吹付工法「Hisp工法」）の採用
6. 現場への進入路が1経路のため、別途発注工事との調整が必要である。

上記に挙げる諸問題があり、解決や調整など多岐にわたり苦労しました。以上の留意・注意点について次のとおり対処しました。

1. 本現場は長大な斜面の復旧保護工事である事、直高125m、斜長最大200mの被災斜面は出来る限り危険要因（不安定岩塊）の排除が必要であり施工可能な方法の提案と改善の実施により安全な施工を第一に考えて、工事に当たりました。

2. 復旧斜面には不安定な土塊や岩塊が残存し、落下物災害の危険が常に混在している斜面の掘削方法について、作業員への落下物災害の防止、疲労軽減及び工事進捗の進展に、無人掘削工法を提案し施工することで工事がスムーズに安全で、スピーディーに行う事が出来ました。

3. 起工測量や出来形測量が、従来の方法では作業時の墜落災害や落下物災害及び測量性能の限界がありその対策として、UAVを使った3次元測量でこの問題に対応しました。

4. 切土、排土作業時の落石や人力施工の限界並びに工事進捗、作業員の疲労軽減に留意が必要であり先に述べました無人掘削工法により事前に、全対象範囲の不安定岩塊の除去を行い逆巻き施工を行う際の、崩土の落下や落石等の危険の排除を確実に施工を進めました。

5. 高所施工範囲の条件に対し特殊工法（高所吹付工法「Hisp工法」）の施工に当たっては、特殊技能を有する技術者の協力の元、高品質な構造物を安全に構築することが出来ました。

6. 現場への進入路が1経路のため、別ルート of 工事用道路の確保が急務となり河川内に渡河施設として工事用道路を作り、出雲市役所発注別途工事が同時進行出来るよう提案しました。これらの問題の対応を行い、工事を安全に完成させることが出来ました。

工事を受注してから1年9カ月に渡り、無事故で工事を完成させる事が出来たのは、発注者である出雲県土整備事務所のご担当者及び出雲市役所のご担当者、工事に関わった協力会社のスタッフの方々並びに他工事の関係者の御協力、御理解の賜物と存じます。

最後になりましたが、今回の工事は私にとりまして、大変貴重な経験であり今後も様々な課題にも対応できる技術力を更に習得し、より安全で高品質な構造物を提供出来るよう、今後も努力していく所存でございます。ありがとうございました。



令和3年度（令和2年度完了） 島根県優良工事等知事表彰

◇ 優秀建設技術者表彰
（優良工事知事表彰）

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	矢尾今市線 大塚工区 改築工事 第27期	株式会社 ダイニ 代表取締役 安達 稔	吉野 誠士
		斐川出雲大社線 北神立工区 改築工事 第1期	株式会社 フクダ 代表取締役 福田 弘道	
農林 水産	農業 土木	農地耕作条件改善事業 斐川下阿宮地区 取水施設整備その2工事	株式会社 フクダ 代表取締役 福田 弘道	中田 一三
	森林 土木	予防治山事業 奥の谷溪間工事	有限会社 金築組 代表取締役 金築 清	
		災害関連緊急治山事業 小弁堂 山腹工事	今岡工業 株式会社 代表取締役 今岡 幹晴	

（優良業務知事表彰）

部門	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 管理技術者
地質調査・ 測量・調査	地すべり対策事業 山寄地区 地質調査及び 機構解析業務	島建コンサルタント株式会社 代表取締役 多久和 豊	和田守 直行

道路



矢尾今市線 大塚工区 改築工事 第27期
(株式会社 ダイニ)

道路



迂回路

斐川出雲大社線 北神立工区 改築工事 第1期
(株式会社 フクダ)

農業
土木



農地耕作条件改善事業 斐川下阿宮地区
取水施設整備その2工事
(株式会社 フクダ)

森林
土木



予防治山事業 奥の谷溪間工事
(有限会社 金築組)

森林
土木



災害関連緊急治山事業 小弁堂 山腹工事
(今岡工業 株式会社)

令和3年度（令和2年度完了） 島根県優良工事等所長表彰

◇優良工事表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	斐川一畑大社線 地合工区 改築工事 第9期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	糸川 賢一
		外園高松線 下横工区 交通安全工事 第3期	株式会社 ナカサン 代表取締役 中筋 雄三	馬庭 雅哉
		出雲三刀屋線 船津工区 改築工事 第3期	大福工業 株式会社 代表取締役 福代 明正	花田 俊介
		大社立久恵線 乙立工区 改築工事 第4期	株式会社 今岡工務店 代表取締役 今岡 光政	今岡 宏典
		国道184号 佐田大橋 橋梁耐震工事	株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	高橋 寿元
		小伊津港線 東郷～東福工区 舗装整備工事	山口建設 株式会社 代表取締役 山口 弥	岡 正幸
	河川	九景川 河川緊急整備工事 第4期	山陰建設工業 株式会社 代表取締役 磯田 真左一	内田 啓二
		塩冶赤川 大規模特定河川工事 第9期	今岡工業 株式会社 代表取締役 今岡 幹晴	神谷 和宏
		稗原川 河川災害復旧工事 30災39号	有限会社 嘉村建設 代表取締役 嘉村 栄二	森脇 健太
	港湾 空港	河下港 港湾改修工事 第21期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	岡 学
	砂防	坂浦地区 急傾斜地崩壊対策工事 第3期	有限会社 南場工務店 代表取締役 南場 操	吾郷 祐二
	都市 計画	神門通り線 2工区 街路工事 第1期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	平井 清
農林 水産	農業 土木	地すべり対策事業 茅原地区 地下水排除 工事	昭和開発工業 株式会社 代表取締役 荒木 克之	三原 研次
	森林 土木	林道開設事業 宮本聖谷線 道路工事	株式会社 安井組 代表取締役 安井 和広	原 和也

◇優良業務表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 管理技術者
農林水産 設計	林地荒廃防止事業 唐川 測量・設計等業務	島建コンサルタント 株式会社 代表取締役 多久和 豊	江角 慎

令和3年度（令和2年度完了） 島根県東部県民センター優良工事等表彰

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
建築	建築	出雲空港国際線ターミナルビル 便所改修 外工事	株式会社 フクダ 代表取締役 福田 弘道	高田 康司

▶ 国道9号多伎町小田の災害応急対策について

令和3年8月18日（水）に国道9号（380K200～381K100付近、出雲市多伎町小田）において道路に変状が確認され、同11：25より全面通行止めが行われました。

地すべりの規模は長さ100m、高さ30m、落差が3m程度でかなり大規模な災害となっています。

また、JR山陰線は線路への直接の影響はないものの、こちらの区間も通行止めとなっている状態でした。その中で、国道9号については山陰自動車道の開通もあり大きな混乱は見られませんでした。JR山陰線については振替輸送となり、学校関係者等に大きな影響がでている状態でした。

今回の対策は、主として松江国道事務所と「災害応急対策活動等に関する基本協定」を締結している松江国道災害対策協力会（工事関係業者40社）が災害応急活動を行いました。



協会員による工事用車両の誘導

全体では、地すべり部の頭部排土、水抜きボーリング、モルタル吹付、舗装等様々な作業がある中で、松江国道災害対策協力会出雲地区13社のメンバーで、毎夜における各照明車の運転・給油等の管理、国道9号下法面の崩土箇所（大田側）への大型土のう積み、崩土掘削、運搬、落石防止柵設置、仮設歩道設置を担当し、ついに10月18日に全面通行止めから片側交互通行で通行が可能になり協力することができました。



地すべり発生時（松江国道事務所提供）



地すべり対策完了時（松江国道事務所提供）



大型土のう積み状況



ロングリーチによるR9とJR間の掘削



地すべり対策工の施工中の状況 (松江国道事務所提供)

かなり厳しい条件の中、国道9号では近年にない大規模な災害で約2ヶ月間に及ぶ災害応急工事でしたが、伸縮計及びWebカメラでの現場監視をしていただきながら、延べ人数約600人、バックホウ (0.1m³～0.8m³)・移動式クレーン (25t～60t吊り)・大型ダンプ等の機材を投入し、無災害での完工を最優先に、また

地域住民の不便さ解消にお役に立てたことは大変よろこばしく思います。協力していただいたすべての皆様方に感謝申し上げます。

また、8月23日には島根県の丸山達也知事、9月7日には参議院議員の足立敏之災害対策特別委員会理事が災害応急現場の視察にきていただきました。



参議院議員足立議員の現地視察状況 (議員FBより抜粋)

▶ 島根県各種功労者表彰

昭和開発工業(株)
故 荒木 國夫



荒木克之社長 代理受賞

昭和開発工業株式会社 代表取締役会長 荒木國夫様が、去る令和3年10月15日にご逝去されました。

長きにわたり業界及び地域の発展にご尽力された荒木國夫様のこれまでの功績に対し、心から感謝するとともに、改めてご冥福をお祈り申し上げます。

御 礼

島根県各種功労者表彰（建設部門）において表彰していただき、大変光栄に思います。

また、賞状に書いてある日付が命日となる10月15日だったことも不思議な偶然を感じました。それに気づいた家族や親族はとても喜び、家族にとって慰めにもなりました。

何より本人にとっても、大変に嬉しいことだったと思います。

この度の表彰に際しましてご推薦をいただきました島根県建設業協会の中筋会長を始め、会員の皆様方そして業界関係の多くの皆様の温かなご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

昭和開発工業(株) 荒木 克之

功 績

- | | |
|----------|-------------------------------|
| 昭和50年 4月 | 協栄建設工業(株)入社 |
| 昭和54年11月 | 合併により昭和開発工業(株)に商号変更 |
| 昭和63年12月 | 昭和開発工業(株)取締役に就任 |
| 平成 5年 4月 | 島根県土木施工管理技士会出雲支部理事に就任 |
| 平成 8年 5月 | 昭和開発工業(株)取締役常務に就任 |
| 平成 8年 5月 | 全国建設業協会会長表彰（第5条 地方協会員の従業員） |
| 平成21年 9月 | 昭和開発工業(株)代表取締役社長に就任 |
| 平成22年 4月 | (社)島根県建設業協会出雲支部副支部長に就任 |
| 平成23年 4月 | (一社)島根県出雲地区建設業協会副会長 |
| 平成30年 8月 | 出雲地区建築技術協会理事に就任 |
| 令和 3年 1月 | 昭和開発工業(株)代表取締役会長に就任 |
| 令和 3年 5月 | 全国建設業協会会長表彰（第2条4号 地方協会員の会社役員） |
| 令和 3年11月 | 島根県功労者表彰（建設功労） |



▶ 第58回 全国建設業労働災害防止大会に参加して

安全委員会

持田 正司 〔株浜村建設〕



私達安全委員会は、令和3年10月7日・8日の両日、京都市で開催された「第58回全国建設業労働災害防止大会」に参加しました。

新型コロナウイルス感染症の為、前回大会は現地開催中止、本大会は感染症拡大防止対策を徹底した上での開催となりました。

関係者延べ3,000人以上が集う全国大会に初めて参加し、その規模・熱気に気圧される思いでした。

開会式は参加者全員が起立し、国歌斉唱を行い、建設業の労働災害により尊い命を失われた方々への黙祷が捧げられた後、建設業労働災害防止協会今井雅則会長の挨拶、厚生労働大臣はじめ来賓の方々の挨拶、大会実行委員長による歓迎の挨拶へと続きました。



その後安全衛生表彰、顕彰基金による顕彰、安全の誓いへと順次執り行われました。

今井会長のお言葉で令和2年の死亡災害は過去最少となりましたが、墜落・転落による死亡災害は依然として多く憂慮すべき状況に変わりないとの言葉が心に残りました。また猛威を振るう自然災害からの復旧・復興工事やインフラ整備工事等高水準の工事量の中、人材不足・高齢化の進展・外国人労働者の受入れ等による労働災害の懸念が益々高まっている事で、労働災害防止活動の重要性を再認識し、建設業に携わる人々の健康・安全を推進する手助けが出来ればなと感じました。

本大会では「仲間の命を守るため 小さな危険も見逃さない 安全確保に妥協なし」のスローガンのもと

一、「墜落・転落災害撲滅キャンペーン」等をはじめとする徹底した三大災害防止対策の実施

一、リスクアセスメントの確実な実施とニューコスモスの積極的な導入

一、建設現場におけるメンタルヘルス対策と新ヒヤリハット報告を活用した新たな安全対策の推進

を重点目標として、安全衛生活動に取組み、建設業に従事するすべての世代が未来に希望を持てる安全で安心な魅力ある職場環境を実現することを誓い閉会しました。



最後に、私は昨年2月より安全委員を拝命致しましたが、安全パトロール等で地元建設業者様の様々な新しい労働災害防止活動への取組を勉強させて頂いてます。「安全は出雲から」を合言葉に出雲地区が県内のリーダーになる様皆様の事業所と共にみんなで一緒に頑張りましょう。

ご安全に!!

▶ 令和3年度 安全パトロール

建設業労働災害防止協会（建災防）島根県支部出雲分会では、建設現場での労働災害防止を図るため、毎年安全パトロールを実施しています。

令和3年度12月までの実施状況

- ・第1回安全パトロール 令和3年 7月29日（木）3現場
- ・夜間安全パトロール 令和3年 8月 4日（水）2現場
- ・特別安全パトロール 令和3年10月27日（水）3現場
（労働基準監督署・出雲県土整備事務所・建災防本部・建災防島根県支部・安全委員）
- ・役所合同パトロール 令和3年11月25日（木）3現場
（労働基準監督署・出雲県土整備事務所・建災防島根県支部・正副分会長・安全委員）
- ・夜間安全パトロール 令和3年12月10日（金）2現場

※特別パトロール、役所合同パトロール以外は、出雲分会安全委員で行います。

安全パトロール



コロナ感染防止対策



女性用トイレ完備・熱中症対策



開口部の安全対策

役所合同パトロール



作業員通路の確保



危険箇所への「立入禁止」表示



ハザードマップの作成



エコ活動の取り組み



安全対策を確認



社内目標の掲示



緊急連絡（搬送先病院）の掲示

夜間パトロール



パトロールの実施にあたり、現場での対応等当該業者の皆様には、ご多忙にも関わらずご協力いただき、誠にありがとうございました。

これからも「安全は出雲から」を合言葉に、安全な作業環境の維持・向上を図り、労働災害の撲滅に向け取り組んでまいります。

会員の皆様には、引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

▶ 令和3年度 安全研修会

令和3年度の安全研修会を下記のとおり開催し、現場代理人・主任技術者等関係の方々93名のご参加をいただきました。

共同開催

建設業労働災害防止協会島根県支部出雲分会
一般社団法人出雲市建設業協会

開催日:令和3年9月30日(木)

会 場:ニューウェルシティ出雲

研 修:①「災害事例から考える災害防止対策」

出雲労働基準監督署

安全衛生課 課長 田淵和正 氏

②「出雲市の防災について」

出雲市役所

防災安全課 主任 倉瀧一誠 氏



出雲労働基準監督署 安全衛生課 課長 田淵和正氏



出雲市役所 防災安全課 主任 倉瀧一誠 氏

労働災害のうち、墜落・転落事故は死亡・重症化のリスクが高く、特に注意が必要です。日ごろから安全対策を十分とるとともに「慣れ」が生じないように、始業前の点検等をしっかり行う事が重要であると、改めて感じました。

令和3年度は、豪雨により市内で甚大な被害が発生し、応急工事には多くの会員企業が対応に当たられました。今後、復旧工事が本格化するなかで、発注者との連携を密にして、一日でも早く普段どおりの生活環境が整えられるようになればと思う次第です。



▶ 経営研修会 2021

令和3年度の「経営研修会」を下記のとおり開催しました。

開催日:令和3年11月26日(金)
 会場:出雲建設会館
 演題:SDGsで広がるビジネスチャンス
 ～本質・思考法の理解と選ばれる企業とは～
 講師:山陰合同銀行
 域振興部地域振興グループ調査役 井上光悦 様

SDGsとは、「持続可能な開発目標」と訳され、近年、急速に注目されている人類共通の目標のことを言います。

講演では、現在、世界は環境、経済、社会の各分野で大きな課題に直面しており、これらの解決には経済や社会の活動の基盤ともいえる地球環境を守ることも大きな論点とされていること、そして、誰一人として取り残さないという理念の実現が目指されています。このような様々な課題の解決や理念の実現のために、2016年～2030年の15年間で達成する17の大きな目標と行動計画が定められています(下図参照)。

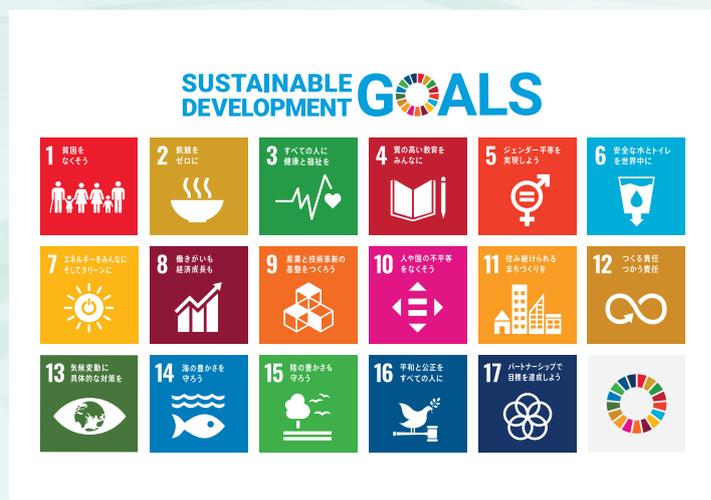
このような世界の大きな動きを敏感に感じ取り、日本の経済界においては、経団連がSDGs達成を前面に企業行動憲章を改訂し、文部科学省の学習指導要領においても、SDGsの視点が入られているとの話もありました。

企業経営においては

- (1) SDGsを理解する
- (2) 自社の取り組みをSDGsの視点から考える
- (3) 取り組みを発信していく。

を最初のステップとして考えながらも(1)における、社内全員で共有することが最も重要であるとの説明がありました。

聴講して感じたことは、これからの企業経営にあたっては、SDGsへの取り組みが必要不可欠なものになっていくこと、その中でビジネスチャンスに繋げていく事業を掘り起こして、実践していくことが重要になってくるということでした。



今後、社会を担っていくミレニウム世代は、環境問題等への関心が高く、これらの問題解決に取り組む企業が、就職先の一として選択対象になっていくことも想定されるのではないのでしょうか。

私たち地球上に住む人間一人ひとりができることはたくさんあります。2030年の期限まで残りは9年。SDGsを「知っている」と「取り組んでいる」では、未来が大きく変わるはずですよ。

今回の研修会を契機に、多少なりともSDGsに関心を持って頂ければ幸いです。

▶ インターンシップ事業に協力しています

当出雲地区建設業協会では、毎年、東部高等技術校、出雲農林高等学校、出雲工業高等学校の生徒をインターンシップ（現場実習）事業として受け入れております。インターンシップの目的は、産業現場で勤労体験をすることにより、学習の進化及び個性の伸長と進路意識の高揚が図られると共に、協調性を養い、地域産業の認識を深めることにあります。

しかしながら、近年、建設産業への就職を希望する学生の減少を耳にしており、建設産業の果たす役割や正確な産業界の姿を伝えること、ものづくりの喜びや高度な技術力を身近に体験して頂き、併せて進路意識の高揚を図り、建設産業に対する理解を深め、関心を高めていただくことも我々の役目であると考えます。

インターンシップ体験談

▶ インターンシップを通して



島根県立東部高等技術校

住環境・土木科 2年 **飯野 雄五**

今回私は、6月14日～6月18日までの5日間のインターンシップを、株式会社フクダ様でお世話になりました。技術校では見ることのない作業や、現場の緊張感を体験できました。

1番印象に残っている事は、山陰道の橋台の深礎工の現場です。授業では写真を見て勉強しましたが、テレスコームやライナープレートを実際に見ることが出来ました。オペレーターの方は、操縦席からアーム先が見えにくい中、周囲の状況確認と安全に気を配りながら的確に掘削しておられました。私は、目の前の作業だけに集中してしまい、作業全体の流れが遅くなってしまふなどのミスをしてしまうので、今後は周りを観て作業できるようにしなければならぬと思いました。

また、実際の現場の安全管理について体験できました。単管を使用してバリケードを設置したり、落下防止のネットを取り付ける作業をしました。その際に、現場の方々から丁寧に指導していただき、最後までしっかりと作業することが出来ました。

私は、鹿児島県出身です。島根県に来て、山陰道のような大規模な現場でインターンシップをさせていただけた事は、大変貴重な体験だったと思っています。山陰道が完成するまであと数年ですが、今現在もその後の進捗状況に関心を持ち、株式会社フクダ様のホームページを拝見したり、現場付近の道路を通るたびに見たりしています。

今回の経験を活かし、就職先で戦力になるよう努力していきます。本当にありがとうございました。

▶ インターンシップ感想



島根県立出雲農林高等学校

環境科学科 2年 岡 将吾

私は今回、株式会社中筋組様に4日間インターンシップに行かせていただきました。始めはとても緊張し、会社に入りましたが社員の方々が優しく接してくださり、安心して4日間体験することができました。

初日は会社概要を聞かせていただき、その後現場見学へ行きました。まず最新のクレーンを見学させていただき、人工衛星から位置を特定し、どの程度掘削すれば良いか指示してくれる機能がついているものと知り、最新技術はすごいなと驚きました。次に道路工事の現場では、道路は見えない部分の作業がとても重要で一番コストもかかるということを教えていただきました。道路をつくるのにも多くの作業内容があり、しかも見えていない部分がとても大切ということが知れてよかったです。その他にもコンクリートプラントの見学やトンネルの工事現場など、これまで見たことがなかった作業途中の様子を、沢山見ることができ、とても嬉しかったです。

2日目は斐伊川第1河道掘削外工事の見学に行かせていただきました。川幅を広げる工事現場でとても安全に配慮して工事を進められているなど感じました。1日2回の安全巡視や危険箇所の掲示、月1度の安全訓練など事故のない現場にするために多くの工夫があるなど感じました。またドローンによって地形を映しだし、点群データを利用して横断図を作成したり、ブルドーザーで作業したりすることを知り建設業では色々な機械に最新の技術が使われているなど思いました。

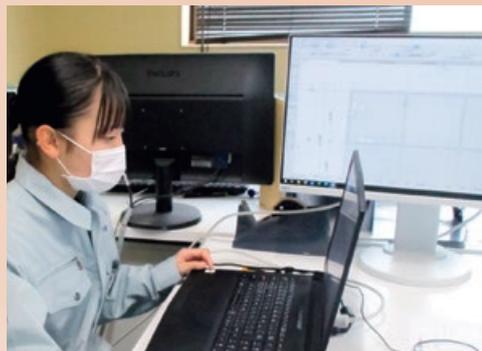
3日目、4日目は湖陵・多伎道路の現場を見学させてもらいました。のり面補強の作業を実際に見ることができ、コンクリートの枠に土を入れる作業をしておられ、現場で様々な肥料を混ぜて土をつくり、ポンプで送り出しをしているところはとても迫力がありました。また測定の作業体験では、タブレットによって測量器械の気泡管などを遠隔操作することや、地形をスキャンし一瞬で点群データをつくることを見させていただきとてもすごかったです。また、初めて40t積むことができる特別車両をみることができ嬉しかったです。その他にもトンネルの水準測量や丁張りをさせてもらい、普段とは違う体験ができました。記録用の写真撮影を体験させてもらい、作業工程を細かく記録しておく必要があることが分かりました。

今回の4日間では始めは緊張もあり、なかなか質問もできませんでしたが、次第に緊張もほぐれ質問することができるようになり、沢山のことを知ることができました。普段見ている道路やトンネルなどの作り方や現場での注意点、環境への配慮など勉強になることがとても多かったです。また、地域の方々との信頼関係や職場でのあいさつやコミュニケーションの大切さも改めて知ることができました。建設業という仕事はやりがいがあり、普段の私たちの生活を支えているすごく重要な仕事だと感じる事ができました。貴重な体験を沢山させていただき、充実した4日間でした。本当にありがとうございました。

▶ 現場でしか学べないこと

島根県立出雲工業高等学校

建築科2年 **矢倉 未来**



インターンシップで思い出に残ったことは、BIMとドローンの体験です。この2つの体験は学校生活の中では体験したことが無いため、上達するまで時間がかかりました。その分、出来たときの達成感がとても大きかったです。

私は、BIMという技術を初めて知りました。普段学校で使用しているCADとの操作の違いにとっても苦労しました。しかし、その苦労以上に平面図から自動的に立体になることに、面白さや完成に近づいていく楽しみを感じながら作業することができました。また、教えていただいている中で様々な知識が自分の頭の中に入っていき嬉しさも感じました。

ドローンを飛ばした体験は、私自身ドローンに触れることも初めてで、上下左右何も分からないまま操作することになりました。操作してみると思っていた通り難しかったです。慣れるにつれてだいたいの感覚で操作できるようになりました。ドローンにはカメラが搭載されていて、上空から建築物の工事の進捗状況を把握するのにとても便利だと思いました。これから、建築業界にもどんどん便利で良い機能のものが入ってくると、短期間で正確な建築物を作ることができるようになると思いました。

私は、この3日間のインターンシップで、学校では経験したことのない作業を沢山させていただきました。分からないことだらけでしたが、建築の面白さを身近に感じることができました。なかなか体験できない実際の現場での活動は、私にとってこれからの進路選択の参考になりました。建築の専門分野の学習に今まで以上に熱心に取り組んでいきたいです。

貸し会議室のご案内

各種 講習会・研修会・会議にご利用ください。

1F 101 会議室



ソファー席
ゆったりとご利用
いただけます

2F 201 会議室



スクール形式
コの字形式 etc
レイアウト自由

2F 大会議室



取扱備品
プロジェクター
スクリーン
マイク
ピンマイク
ホワイトボード
ビデオ・DVDデッキ

駐車場完備



最大収容台数60台

区 分	午 前 9:00～12:00	午 後 13:00～17:00	全 日 9:00～17:00
1 F 101 会議室 (14名)	1,500円	2,000円	4,000円
2 F 大会議室 (100名)	8,000円	9,000円	16,000円
201 会議室 (25名)	2,000円	2,500円	4,000円
※カッコ内の人数は最大収容人数です。			

お問い合わせ
ご予約はこちらまで

(株)出雲建設会館

出雲市塩冶善行町 2-2

☎ 0853-21-1187

受付時間

平日 8:30～17:00

令和3年を振り返って



写真引用：今岡工業株式会社、時事ドットコムニュース、中日新聞、NEWS ポストセブン

▶ 編集後記

2021年を振り返ると、新型コロナウイルスの拡大と収束を繰り返した一年でありました。今もなお収束せず、また変異ウイルス出現もあり、世界中の人々の暮らしに大きな影響を与え続けております。ただし明るい話題もあり、延期された東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。その後ワクチン接種も進み、新規感染者が急激に減少し、経済活動も少しずつ動き出した感もあります。

また自然災害にも見舞われました。7月8月の豪雨災害はいたるところにその爪痕を残しました。我々の業界も一丸となって、官民一体となり、各所で昼夜を惜しまず懸命に応急復旧にあたりました。

来る寅年は、勇猛果敢に何事も前向きに立ち向かい、疫病を退治する年となることを願います。

経営改善研究委員会 手銭 弘明〔宍神門組〕

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)